

新規事業採択時評価結果（平成21年度 新規事業化箇所）

担当課：関東地方整備局地域道路課
担当課長名： 田村 俊彦

事業の概要

事業名	市道 01-008号線	事業区分	地方道	事業主体	千葉県富里市
起終点	自：千葉県富里市新橋 至：千葉県富里市中沢	延長	2.2km		
<p>事業概要</p> <p>本路線は、国道409号と東関東自動車道の(仮)酒々井ICを結ぶ路線であり、現道の市道01-008号線（生活道路）との機能分担を図るため、バイパス道路を整備するものである。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>現道は生活道路として機能しているが、東関東自動車道の(仮)酒々井ICの設置により空港へ向かう貨物車両などが本路線に流入、集中することが予想されることから、現道の交通混雑や安全性の悪化等の危険性を回避するため、(仮)酒々井ICの設置にあわせ、当該区間の整備を行うものである。</p> <p>また、本事業は空港南部から(仮)酒々井ICへのアクセス道路となることから、混雑の激しい富里IC付近の渋滞緩和にも寄与するものである。</p>					
全体事業費	20億円	計画交通量	13,000台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

平成15年2月に国・県・地元自治体・空港公団の4者で締結した「新東京国際空港公団民営化に関する覚書」において、地域振興等に関する事項として交通アクセス整備の推進と協力について確認されている。

また、平成20年5月に空港周辺9市町で構成する「成田国際空港都市づくり推進会議」がとりまとめた基本構想においても、都市づくりに向けた施策として、空港周辺交通網の整備を位置づけている。

事業採択の前提条件

便益が費用を上回っている。

沿線自治体から強い要望があり、円滑な事業執行環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.4	総費用	18億円	総便益	62億円	基準年	平成20年	
				事業費：17億円 維持管理費：1.2億円		走行時間短縮便益：61億円 走行経費減少便益：0.31億円 交通事故減少便益：1.6億円			
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.1	(交通量 -10%)		B/C=3.8	(交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=3.8	(事業費 -10%)		B/C=3.1	(事業費 +10%)		
	事業期間変動	B/C=3.3	(事業期間 +1年)		B/C=3.5	(事業期間 -1年)			
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠					
		渋滞対策	○	本路線と(仮)酒々井ICの整備により成田空港周辺の交通が分散されることにより、富里IC周辺道路の渋滞緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 整備前；2,391.1万人・時間/年 整備後；2,370.4万人・時間/年（-20.7万人・時間/年の効果）；H42年推計値					
		事故対策	○	バイパス道路の整備により、現道への通過交通及び大型車の流入を抑制されることから、通過交通や大型車の流入に起因する交通事故の減少が見込まれる。 【特徴】 現道の市道01-008号線は幅員約6mで歩道が無く、生活道路として機能しており、安全面や交通容量から通過交通の流入を抑制する必要がある。					
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。					
	社会全体への影響	住民生活	○	富里市東部地域から東関東自動車道へのアクセス性が向上し、地域の移動利便性が向上する。					
		地域経済	○	成田国際空港第6ゲートから(仮)酒々井ICへのアクセス道路となるとともに、東京方面と成田国際空港間の物流の効率化に寄与する。					
		災害	—	注目すべき影響はない。					
環境		—	注目すべき影響はない。						
	地域社会	○	東関東自動車道の(仮)酒々井ICとあわせて整備することにより、周辺地域との連携強化、産業振興に寄与する。						
事業実施環境	○	特別立法に基づく事業である (成田国際空港周辺地域のための国の財政上の特別措置に関する法律)							

採択の理由

事業主体である千葉県富里市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が3.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、東京方面と成田国際空港間の物流の効率化、周辺地域との連携強化、産業振興等、当該事業の整備の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。

以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。